

平成23年度

公立大学法人広島市立大学の業務実績に係る評価結果

平成24年8月

広島市公立大学法人評価委員会

公立大学法人広島市立大学の各事業年度における業務実績の評価方法及び基準について

1 法人による自己評価

- (1) 年度計画の記載事項ごとの実施状況を以下の5段階により自己評価し、評価理由と併せ、実績報告書に記載の上評価委員会に提出する。

評価の記号	実施状況の説明
s	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。
a	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。
b	質・量双方において年度計画どおり実施されている。
c	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「b」とすることができる。
d	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。

- (2) 年度計画の小項目及び大項目ごとの自己評価についても(1)と同様とする。

2 評価委員会による評価

(1) 小項目評価

- ア 「中期計画の達成に向けて、各事業年度の業務を順調に実施しているかどうか」という観点から、法人による自己評価を踏まえつつ、年度計画の内容の妥当性も含めて、小項目ごとに以下の5段階により評価する。

評価の記号	実施状況の説明
S	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。
A	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。
B	質・量双方において年度計画どおり実施されている。
C	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「B」とすることができる。
D	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。

- イ 評価委員会の評価が法人による自己評価と異なる場合は、その理由等を示すものとする。

(2) 大項目評価

- 小項目評価を踏まえ、大項目ごとに以下の5段階により評価するとともに、特筆すべき事項等があればその旨のコメントを記載する。なお、評価の記号ごとに以下の評点を付す。

評価の記号	実施状況の説明	評点
S	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。	5
A	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。	4
B	質・量双方において年度計画どおり実施されている。	3
C	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「B」とすることができる。	2
D	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。	1

(3) 全体評価

大項目ごとに以下の評価比率を配分し、大項目評価の評点を加重平均（評点×評価比率を合計）した結果を基に評価する。また、法人による実績報告書の記述等を踏まえ、中期計画の実施状況に係るコメントを記載する。

大項目	評価比率
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育	20%
2 学生への支援	10%
3 研究	15%
4 社会貢献	15%
5 国際交流	10%
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	15%
第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	15%

評価の基準	評価の記号等	
4.5 < X	S	法人の業務は、中期計画の達成に向けて極めて順調に実施されている。
3.5 < X ≤ 4.5	A	法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。
2.5 < X ≤ 3.5	B	法人の業務は、中期計画の達成に向けて概ね順調に実施されている。
1.5 < X ≤ 2.5	C	法人の業務は、中期計画の達成に向けて十分に実施されていない。
X ≤ 1.5	D	法人の業務には、中期計画を達成するために重大な改善事項がある。

※ Xは大項目評価の評点×評価比率の合計

公立大学法人広島市立大学 平成 23 年度業務実績に係る評価

全体評価

評価の記号

A：法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。

評価コメント

広島市立大学の法人化後 2 回目の年度評価に当たり、全体として見ると、今年度も、中期計画で想定していた以上の優れた成果を挙げたといえる。今年度の特徴は、芸術学部の教育・研究・社会貢献の各部門での積極的な取組と、平和研究所と国際学部・情報科学部との連携の促進による大学全体の強化である。

また、もう一つの特徴として以下の状況を報告しておくべきであろう。項目別に見ると、広島市立大学による自己評価と評価委員会による評価との相違が目立った。小項目では 40 項目中 9 項目（うち 7 項目は自己評価からの引上げ）、大項目では 9 項目中 5 項目（うち 3 項目は自己評価からの引上げ）である。この相違は、主として評価の視点の違いに由来しており、広島市立大学による自己評価では、中期計画の想定内容を基準にし、実績を正統的に評価しているのに対して、評価委員会での議論は、我が国の大学を取り巻く環境が大きく変動していることに配慮し、昨年度より高い実績を挙げて自己評価を a にしていても、広島市立大学のポテンシャルをもってすれば、そこに安住することなく、より高い目標を掲げるべきと考える項目では B に引き下げ、一方で、最近の多くの大学の動向に照らして、広島市立大学が努力し高い実績を挙げていると思われる項目に対しては、昨年度と同程度の実績で自己評価を b にしていても A に引き上げた。

大項目別に見ると、「教育」関係では、法人化の目玉の一つである全学共通科目の充実と教育環境の整備への取組が更に進み、また、芸術学部の学部及び大学院教育の充実と芸術情報の利用環境の整備、さらには平和研究所の移転計画の前倒しに伴う国際学部との双方の教育内容の強化、そして一方で、今後の布石としての市内中心部におけるキャンパススペースの確保等に大きな前進が見られた。

「学生への支援」と「社会貢献」は、評価委員会が積極的に高評価した項目であり、大項目「教育」中の小項目「特色ある教育」と併せて、大学の新たなブランドの一角を形成することが期待される。

これに対し、「研究」と「国際交流」については、共に昨年度の実績を^{りょうが}凌駕しているにもかかわらず、評価委員会としては、広島市立大学のポテンシャルと広島という地の利に期待して、更なる高みを目指す努力を期待したいという意図を込め、B にとどめた。

法人化のもう一つの目玉であった「業務運営の改善及び効率化」に関しては、初年度で組織体制の整備が完了し、今年度からはその定着を図る段階に

入っている。教員ポストの全学的視野からの戦略的活用体制は機能し始め、また、各学部等における意思決定が、全学的な戦略との調和の下で進められることを意図して導入された「運営調整会議」も順調に運営されている。また、「自己点検及び評価」については、各担当部署の並々ならぬ努力の跡がうかがえ、事実に基づく評価がなされている。広島市立大学の運営体制は大きく変わり、順調に定着してきている。

「財務内容の改善」に関しては、学生の確保、外部資金の獲得その他自己収入の増加に努め、予定どおりの収入を確保する一方、細かい取組を重ねて管理経費の抑制に努力し、大きな成果を挙げている。

以上、広島市立大学は法人化2年目を終了し、学内外の努力により継続的向上の軌道に入りつつあるといえる。今後の力強い成長を期待したい。

組織、業務運営等に関する改善事項等について

組織、業務運営等に関し、特に改善を勧告すべき点はない。

項目別評価（総括表）

評価項目		評価の記号
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置		
1	教育	A
	(1) 教育内容の充実	
	ア 全学共通教育	A
	イ 特色ある教育	B
	ウ 学部専門教育	B
	エ 大学院教育	B
	(2) 教育方法の改善	
	ア 授業内容及び授業方法の改善	A
	イ 学習環境及び学習支援体制の整備	B
	ウ 成績評価システムの整備	B
	(3) 積極的な広報と学生の確保	
	ア 積極的な広報	A
	イ 学生の確保	B
	(4) 教育実施体制の整備	
	ア 教職員の配置等	B
	イ 教育環境の整備	A
	ウ 芸術情報の利用環境の整備	A
2	学生への支援	A
	(1) 学習支援	A
	(2) 日常生活支援	B
	(3) 健康の保持増進支援	A
	(4) 就職支援	A
	(5) 課外活動支援	B
	(6) 経済的支援	B
	(7) 留学生支援	A
3	研究	B
	(1) 研究活動の活性化と成果の普及	
	ア 研究活動の活性化	A

評 価 項 目		評価の記号
	イ 研究成果の普及及び還元	B
	(2) 研究体制の強化	B
4	社会貢献	A
	(1) 生涯学習ニーズへの対応	A
	(2) 「産学公民」連携の推進	/
	ア 地域産業界との連携	A
	イ 国、地方自治体等との連携	A
	ウ 学術機関及び研究機関との連携	B
	エ 小中高等学校等との連携	B
	(3) 社会連携センターの機能の充実	/
	ア 社会連携センターの体制整備	A
	イ 学部及び研究科の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援	B
	ウ 研究成果、学内資源等の活用	A
	エ 学生の育成	A
5	国際交流	B
	(1) 海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開	B
	(2) 留学生への支援体制の充実	B
第3	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A
	1 運営体制	A
	2 人事	—
	3 事務処理	A
第4	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A
	1 自己収入の増加	B
	2 管理経費の抑制	A
第5	自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	A
第6	その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	B
	1 施設及び設備の適切な維持管理等	B
	2 安全で良好な教育研究環境の確保	B

項目別評価

中期目標	中期計画	平成 23 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第 2 教育研究等の質の向上に関する目標 1 教育に関する目標	第 2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 教育（大項目）					
(1) 教育内容の充実 全学共通教育では、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性をかん養するとともに、グローバル化や情報化の進展等時代潮流に対応できる能力を身に付けさせる教育を行う。	(1) 教育内容の充実 ア 全学共通教育（小項目） (ア) 自律的学習能力やコミュニケーション能力等の養成を図るため、初年次教育において、特定の学術分野を定めず多様な問題について少人数のセミナー形式で調査研究し、討論する科目を開設する。 (イ) 学生に、読書や美術鑑賞、映像鑑賞を通じて専門	○科目「基礎演習」の全学実施 ○科目「基礎演習」の実施結果の評価、科目内容の見直し ○「いちだい知のトライアスロン」事業の実施	大項目評価 中期計画に掲げる重点取組項目である「初年次教育の充実」及び「全学共通教育の充実」を中心に計画に掲げる取組を着実に実施した。 特に、学生に読書や美術鑑賞、映画鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業については、参加学生数が前年度と比較して著しく増加したこと、また、推薦作品データベース機能の拡充といったウェブシステムの改修により感想レポートの投稿件数が飛躍的に増加していることから、全学共通教育の充実に大きく貢献した。 また、多様な問題について少人数のセミナー形式で調査研究し、討論する科目「基礎演習」を含む全学共通教育の現状と課題について詳細に分析し、その結果等をまとめた報告書を全教員に配布するなど、全学共通教育の更なる改善に向け、全学を挙げて取り組んだ。 このほか、大学案内と同様の規格にするなどデザイン性の向上及び内容の充実を図った大学院案内及び英語版大学院案内の作成や、平和研究所の教育への参画の推進並びに平和研究所と各学部及び研究科との連携強化のための平和研究所の大学敷地内への暫定移転など、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。	a	〔評価理由〕 教育全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A
			小項目評価 ○自律的学習能力やコミュニケーション能力等の養成を図るため、「基礎演習」を全学で実施した。また、学生及び教員を対象に平成 22 年度及び平成 23 年度に実施した全学共通教育に関するアンケート結果に基づき、科目「基礎演習」を含む全学共通教育の現状と課題について詳細に分析し、その結果等をまとめた報告書を全教員に配布することにより、「基礎演習」のみならず全学共通教育に関する教員の意識向上を図った。さらに、当該アンケート調査結果に基づいて、平成 24 年度の「基礎演習」の実施に向け、全学共通教育委員会委員長及び副委員長が各学部における担当教員と意見交換を行い、科目内容の更なる改善を図ることとした。	a	〔評価理由〕 全学共通教育について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 ○外国語教育「英語応用演習」と「CALL 英語集中」の効果を調査し、科目化を図ることとしたように、緻密な改善が図られている。 ○芸術学部の関与が興味深	A

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業を実施する。</p> <p>(り) 外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、外国語教育の充実を図る。</p> <p>(エ) 全学共通教育のあり方について、全学的視点から検討し、その結果をカリキュラム等に反映させる仕組みを構築する。</p>	<p>○「いちだい知のトライアスロン」の全学共通科目「基礎演習」への組み入れ、事業内容の見直し、ウェブシステムの機能拡充</p> <p>○「英語応用演習」新テキストの教育効果の検証</p> <p>○「CALL 英語集中」の改善、検証</p> <p>○全学共通教育カリキュラムの改編</p> <p>○全学共通教育に関する学生・教員を対象としたアンケート調査の実施</p>	<p>○平成22年度に引き続き、学生に、読書や美術鑑賞、映像鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業を実施したほか、当該事業に参加した学生及び教員へのアンケート結果を踏まえ、感想レポートの登録及び推薦作品データベース機能の拡充といったウェブシステムの改修により利便性を向上させた。</p> <p>【平成23年度参加学生数等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いちだい知のトライアスロン参加学生数:439名(スタートアップコース435名、チャレンジコース4名)(平成22年度参加学生数:66名(スタートアップコース63名、チャレンジコース3名)) ・出張講座参加学生数:87名(平成22年度参加学生数:165名) ・語学センター映画上映会参加学生数:200名(平成22年度参加学生数:講演会9名、映画上映会32名) ・図書貸出冊数(平成24年2月末実績):21,547冊(平成23年2月末実績:20,220冊) <p>○外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、「英語応用演習」の新テキストの教育効果について、平成22年度に実施した教員対象のアンケート結果の分析及び教育効果の検証を行ったほか、「CALL 英語集中」の履修者を対象にアンケート調査を実施するとともに、履修者の受講中における学習記録データとTOEICスコアの伸びとの関連性に関する検証を行った。</p> <p>○全学共通教育に関する学生アンケート結果の分析及び科目内容の検証を行い、総合共通科目を2科目開設するとともに、全学共通系科目として新たにキャリア形成支援科目を導入することにしたほか、パッケージ(科目選択の参考となるよう、テーマに沿った関連科目の履修例を紹介したもの)の見直しを行った。</p> <p>以上のように、参加学生数が前年度と比較して著しく増加したこと、また、推薦作品データベース機能の拡充といったウェブシステムの改修により感想レポートの投稿件数が飛躍的に増加した「いちだい知のトライアスロン」事業の実施や、科目「基礎演習」を含む全学共通教育の現状と課題について詳細に分析し、その結果等をまとめた報告書を全教員に配布するなど、全学共通教育の更なる改善に向け、全学を挙げて種々の取組を行ったことから、「a」と評価した。</p>		い。	
「国際平和文化都市」を都市像とする	イ 特色ある教育(小項目) (ア) 平和に関する教育を推	○平和研究所の教員が全	小項目評価 ○平和に関する教育を推進するため、全学共通系科目である広島・平	b	〔評価理由〕 特色ある教育の充実のため	B

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>広島市の設立した公立大学法人が設置する大学として、平和に関する教育を積極的に推進するとともに、学生が国際性を養う機会の充実を図る。</p>	<p>進するため、平和研究所が全学の平和関連講義等に積極的に参画する。</p> <p>(イ) 国際性を養うため、学生が異文化に触れる機会や国際的に活躍する人材と交流する機会の充実を図る。</p> <p>a 夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」の充実を図る。</p> <p>b 平和記念式典やピースキャンプ（国内外の平和記念式典参列者のために大学運動場内に開設するキャンプサイトをいう。）等多数の外国人が参加する行事への学生の積極的な参加を促す。</p> <p>c 学生が国際機関や国際的NGO等の第一線で活躍する人材と交流する機会の充実を図る。</p>	<p>学の平和関連講義等に参画</p> <p>○カリキュラムの内容及び講義担当者の決定</p> <p>○受講者へのアンケート調査の実施</p> <p>○異文化に触れることができる行事の学生への情報提供</p> <p>○国際的に活躍する者を講師とする講演会の開催</p>	<p>和科目4科目のうち2科目を平和研究所の教員6名が担当したほか、新たに夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」について、同研究所の教員3名が担当した。</p> <p>○学生が異文化に触れる機会や国際的に活躍する人材と交流する機会の充実を図るため、夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」について、実施委員会等においてカリキュラム等を決定したほか、当該プログラム終了前に全受講者に対しアンケート調査を実施し、報告書にまとめた。</p> <p>○多数の外国人が参加する行事への学生の積極的な参加を促すため、平成24年1月に教職員を対象として、異文化に触れることができる行事の調査を実施し、その結果に広島市が実施している関連行事の情報を加え、ウェブサイト及び学内掲示により学生に情報を提供した。</p> <p>○国際学部では、学生が国際機関や国際的NGO等の国際分野の第一線で活躍する人材と交流する機会の充実を図るため、平成23年7月に外務省総合外交政策局国際平和協力室首席事務官を招いて「外交講座」を実施するなど講座を2回開催した。</p> <p>以上のように、特色ある教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>		<p>の取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	
<p>学部専門教育では、各学部の理念と専門分野の特色に対応した効果的な専門教育を行う。</p>	<p>ウ 学部専門教育（小項目）</p> <p>(ア) 学生の多様化に対応するとともに、社会で通用する実践的な能力を身に付けた学生を養成するため、学部専門教育の充実に取り組む。</p> <p>a 国際学部では、平成19年度（2007年度）に導入した新教育課程について、教育内容と成果に関する学内アンケート調査等を行い、必要に応じて見直しを行う。</p>	<p>○学生・教員に対するアンケート結果の分析、課題の把握及びアンケート結果の活用に係る検討</p> <p>○学生に対するアンケー</p>	<p>小項目評価</p> <p>学生の多様化に対応するとともに、社会で通用する実践的な能力を身に付けた学生を養成するため、以下のとおり各学部において学部専門教育の充実に取り組んだ。</p> <p>①国際学部では、学生及び教員に対して平成22年度に実施した新教育課程の教育内容と成果に関するアンケート結果を分析し、学部の専門教育課程（5プログラム）の目標、ねらい、科目構成を検討するとともに、平成23年12月から平成24年1月までの間に、卒業学年の学生を対象としたアンケート調査を実施し、調査結果について学部内での情報共有を図った。</p> <p>②情報科学部では、学部共通系科目、学科専門科目のカリキュラム、卒業必要単位数などの見直し案を作成し、平成24年度から実施することにした。また、平成23年4月に、平成23年度情報科学部</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学部専門教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 23 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>b 情報科学部では、平成 19 年度（2007 年度）に導入した情報工学、知能工学、システム工学の三学科の一括募集及び学科配属方法等について学内アンケート調査等を行い、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>また、多様化した学生への効果的な教育を実現するため、「PDCA」サイクルを機能させながら継続的に教育活動の改善に取り組む。</p> <p>c 芸術学部では、芸術の持つ社会的役割を深く認識し、社会の中で表現活動を実践できる素養を身に付けさせるため、研究プロジェクトへの参画を単位認定する「造形応用研究」の充実を図り、学科・領域を越えた総合的な教育を行う。</p>	<p>ト調査の実施</p> <p>○学生に対するアンケート調査結果を踏まえたカリキュラム、学科配属方法等に係る見直し案の作成</p> <p>○卒業生が就職した企業等にヒアリング、アンケート調査を実施</p> <p>○「造形応用研究Ⅰ」「造形応用研究Ⅱ」等の科目の増設</p>	<p>入学生を対象にアンケート調査を実施し、その結果、情報工学科、知能工学科、システム工学科、平成 24 年度に開設した医用情報科学科の 4 学科の一括募集を当面の間継続することにした。さらに、学部における就職・キャリア形成支援委員会委員が企業と面談を行う中でヒアリングを実施した。</p> <p>③芸術学部では、芸術の持つ社会的役割を深く認識し、社会の中で表現活動を実践できる素養を身に付けさせることを目的として、研究プロジェクトへの参画を単位認定する「造形応用研究」について、より充実した研究成果を還元するため、平成 23 年度の 1 科目から、平成 24 年度以降は 2～4 年次対象の「造形応用研究Ⅰ」と 3、4 年次対象の「造形応用研究Ⅱ」の 2 科目に変更することにした。</p> <p>以上のように、学部専門教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
<p>大学院教育では、それぞれの専門分野における優れた研究能力と高度な専門知識に加えて、学際的視野と国際性を身に付けさせ、国際社会や地域の発展に貢献できる研究者及び高度専門職業人を養成する。また、広島の高専教育研究機関としての存在価値を明</p>	<p>エ 大学院教育（小項目）</p> <p>(ア) 学際的視野と国際性を身に付けさせるため、大学院における共通教育のあり方について検討し、大学院全研究科共通科目の見直しを行う。</p> <p>(イ) 学生の多様化に対応するとともに、専門分野において優れた研究能力と実践的技能を身に付けた学生を養成するため、大学院専門教育の充実に取り組む。</p>	<p>○新規科目の開設に向けた検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>○学際的視野と国際性を身に付けさせるため、学部共通科目「情報と企業」の大学院全研究科共通科目での開設を検討するなどの取組を行った。</p> <p>○学生の多様化に対応するとともに、専門分野において優れた研究能力と実践的技能を身に付けた学生を養成するため、以下のとおり情報科学研究科及び芸術学研究科において大学院専門教育の充実に取り組んだ。</p> <p>①情報科学研究科では、平成 22 年度及び平成 23 年度に実施した組み込みソフトウェア関連科目のモデルカリキュラムについて、その成果を客観的な視点から評価するため、学識経験者等で構成する外部評価委員会に評価を依頼するとともに、当該委員会による評価結果を公開した。また、論文執筆、学会発表等におけるプレ</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>大学院教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○研究科を越えた、教育内容の改善に向けた意欲的な取組は評価できる。</p>	B

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>確に示すため、「平和学」の構築を実現する。</p> <p>(2) 教育方法の改善</p>	<p>a 国際学研究科では、専門基礎科目の見直しを行う。</p> <p>b 情報科学研究科では、学部カリキュラムとの連携を図り、学習課題を複数の科目を通して体系的に履修するモデルカリキュラムを提示し、その履修による教育効果を評価する。また、論文執筆、学会発表等におけるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等高度専門職業人に必要な能力を身に付けさせるため、教育内容の充実を図る。</p> <p>c 芸術学研究科では、文化芸術の保存の分野における高度な専門能力を養成するため、保存科学・文化財学に関する授業科目「文化財保存学特講」を新設し、段階的に拡充を図る。</p> <p>(ウ) 全学的な協力体制を整備し、「平和学」の構築を実現する。</p> <p>a 平和研究所と国際学研究科が連携し、「平和学」のカリキュラムを確立するとともに、「平和学」の学位(修士、博士)を授与する。</p> <p>b 「平和学」のカリキュラムが、留学生に対しても魅力あるものになるよう、英語による講義の充実を図る。</p> <p>(2) 教育方法の改善</p>	<p>○組み込みソフトウェア関連科目のモデルカリキュラムによる教育効果の評価</p> <p>○プレゼンテーション、コミュニケーション能力等強化のためのカリキュラムの試行的実施</p> <p>○「文化財保存学特講」の授業内容の充実</p> <p>○「平和学」の学位(修士)授与のためのカリキュラムに基づいたプログラムの開始</p> <p>○英語による履修が可能な「平和学」カリキュラムに基づいたプログラムの開始</p>	<p>ゼンテーション能力及びコミュニケーション能力の強化のためのカリキュラムを、既存科目において試行的に実施した。</p> <p>②芸術学研究科では、文化芸術の保存の分野における高度な専門能力を養成するために開設している「文化財保存学特講」を平成23年7月及び9月に集中講義として実施し、工芸(漆、金工)、油画及び現代美術の保存修復を取り上げるほか、情報科学研究科の教員が3Dレーザー計測について指導するなど、授業内容の充実を図った。</p> <p>○「平和学」の構築を実現するため、全学的な協力体制の下、平成23年4月に「平和学」の学位(修士)授与のためのカリキュラムに基づいたプログラムを開始するとともに、英語による履修が可能な「平和学」カリキュラムに基づいたプログラムを開始した。</p> <p>以上のように、大学院教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>各学部及び研究科の教育目標を実現し、学生にとって魅力ある授業を提供するため、授業内容や授業方法の改善を図る。</p> <p>また、学生が自主的かつ主体的に学習に取り組むことができるよう、学習環境や学習支援体制を整備する。</p>	<p>ア 授業内容及び授業方法の改善（小項目） 本学の教育方針に沿った教育を推進し、学生の視点に基づいた授業内容及び授業方法の改善を図るため、授業アンケートの実施、セミナーの開催等のFD活動（Faculty Development：教員の教育能力を高めるための組織的取組をいう。）を積極的に行う。</p> <p>イ 学習環境及び学習支援体制の整備（小項目） (ア) 新入生の大学への適応が円滑に進むよう、オリエンテーションの充実を図るとともに、チューターによるきめ細かい学習支援及び相談を行う体制を整備する。 (イ) インターネットを通じて、時間、場所を選ばず、授業の補習ができるよう、また、学生のみならず市民に対しても学習機会の提供ができるよう、授業、公開講座等様々な教育研究活動をデジタルアーカイブ化し、コンテンツの充実を図る。 (ウ) 学生が自習やグループ学習等のために使用することができるよう、学生ラウンジや自習室等を整備する。</p>	<p>○学生・教員に対する授業アンケートの実施</p> <p>○授業改善に関する研修会（FD研修会）の開催</p> <p>○チューター制度の見直し</p> <p>○教育研究活動のデジタルアーカイブ化</p> <p>○自習室等のパブリックスペースの整備計画の策定</p>	<p>小項目評価 本学の教育方針に沿った教育を推進し、学生の視点に基づいた授業内容及び授業方法の改善を図るため、平成23年7月～9月（前期）、平成24年1月～2月（後期）に学生及び教員に対し授業アンケートを実施したほか、平成23年9月から計4回にわたり授業改善に関する研修会（FD（Faculty Development：教員の教育能力を高めるための組織的取組をいう。）研修会）を開催した。 以上のように、参加者数も多く、参加者からの評価も高かったFD研修会の開催に加え、平成22年度開設科目「基礎演習」について副学長及び各学部担当教員による科目内容の更なる改善に向けた協議を行うなど、全学を挙げて授業内容及び授業方法の改善を図るための優れた取組を実施したものととして、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕 授業内容及び授業方法の改善について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A
			<p>小項目評価 ○当初予定していたチューター制度の全学への導入については今後の課題とした上で、学生に対する学習支援等の教員向け手引を全学共通の内容で作成することにし、全学の学生委員会委員及び教務委員会委員で構成するワーキンググループを設置して内容等の検討を行った。 ○インターネットを通じて、時間及び場所を選ばず、授業の補習ができるよう、情報科学部の情報医工学プログラムにおいてeラーニング用コンテンツを作成した。 ○学生が自習やグループ学習等のために使用することが可能なパブリックスペースの整備計画を策定するに当たり、学生の利用実態等を把握するため、講義室の一部及び学生食堂等について、空き時間を利用した自習スペースとして提供した。 以上のように、学習環境及び学習支援体制の整備に係る取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕 学習環境及び学習支援体制の整備についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 〔コメント〕 ○学習支援の一環として、教職員一人一人が適正かつ積極的に取り組む必要があるとの問題意識から、教員向け手引を作成しようとしている。この取組に対する評価は「学習支援」の項目で行う。</p>	B

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>さらに、授業科目の到達目標と成績評価基準を明示するとともに、学生の学習意欲の向上につながる成績評価システムを整備する。</p> <p>(3) 積極的な広報と学生の確保</p> <p>広島市立大学のイメージ戦略を策定し、ホームページ、刊行物等の充実を図ることにより、効果的な広報を行う。また、広島市立大学の建学の基本理念及び使命に沿い、「国際的な大学」及び「市民の誇りとなる大学」として、留学生及び社会人学生の受入れを積極的に進める。</p>	<p>ウ 成績評価システムの整備 (小項目)</p> <p>(ア) 成績評価の厳格化と単位の実質化を図るため、GPA (Grade Point Average : 履修科目ごとの成績に評点を付けて全科目の平均値を算出する成績評価システムをいう。) の導入、履修登録単位数の上限や成績評価基準の見直しを行う。</p> <p>(イ) 芸術学部では、教育効果を測る指標とするため、課題制作作品や入選入賞作品の画像データをデータベース化する。</p> <p>(3) 積極的な広報と学生の確保</p> <p>ア 積極的な広報 (小項目)</p> <p>(ア) ホームページの内容の充実を図るとともに、管理及び運用のためのルールを整備する。</p> <p>(イ) オープンキャンパス、高校進路指導担当教員説明会等において、高校生、高校進路指導担当教員、保護者等にアンケート調査等を行い、その分析結果を広報活動に反映させる。</p> <p>(ウ) 大学院案内の内容を見直すとともに、英語版を作成する。</p> <p>(エ) 地域住民、受験生、在学生等に対するアンケート調査等から本学に対するイメ</p>	<p>○芸術作品データベース作成のための画像データ等の資料収集、フォーマットの作成</p> <p>○オープンキャンパス、高校進路指導担当教員説明会等におけるアンケート調査の実施</p> <p>○アンケート結果の分析、分析結果の広報活動への反映</p> <p>○大学院案内の刷新</p> <p>○英語版大学院案内の作成</p> <p>○地域住民、受験生、在学生等に対するアンケート調査の実施</p>	<p>小項目評価</p> <p>芸術学部では、教育効果を測る指標とするため、平成23年4月にデータベースに入力する項目等を選定し、フォーマットを作成するとともに、各専攻及び分野における課題制作作品及び入選入賞作品の画像データ等(2,147点)の資料収集を行った。</p> <p>以上のように、成績評価システムを整備するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>成績評価システムを整備するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○課題制作作品や入選入賞作品の画像データ(2,100点以上)を統一的なフォーマットの下に収集整理したことは、画期的な作業である。この取組に対する評価は「芸術情報の利用環境の整備」の項目で行う。</p>	B
			<p>小項目評価</p> <p>○大学に対するイメージについてのアンケート調査を、平成23年6月に開催したプレ・オープンキャンパス、8月に開催したオープンキャンパス、9月に開催した高校進路指導担当教員説明会において実施した。また、ウェブサイトにおける画像投稿サイトの開設により新たな広報媒体の収集に取り組んだほか、学生広報サポーター制度の創設により本学の魅力を再発見するとともに、在学生の視点を取り入れた広報活動を行うことにした。</p> <p>○平成23年10月に国際学研究科及び芸術学研究科の大学院案内を、平成24年3月に大学院3研究科及び平和研究所に係る情報を一冊にまとめた英語版の大学院案内を発行した。</p> <p>○理事及び副理事等で構成するプロジェクトチームを編成して、民間事業者が実施した本学におけるブランドイメージ調査を活用したブランドイメージ戦略の検討を行うとともに、当該戦略の一環としてコミュニケーションマークの策定に向けた取組を開始した。</p> <p>上記に掲げる取組のうち、大学院案内の刷新については、大学案内に合わせて規格を大幅に変更してデザイン性の向上を図るとともに、掲載内容についても、各研究科共通の項目を整理して統一性を図りな</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>積極的な広報について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○民間事業者によるビジネスマン、父兄、教員、研究者等を対象にした調査によれば、知名度は中程度で、「学費が安い」「ユニークな学部」等のイメージが強い。これらの情報に基づきブランド戦略を展開しようとしている取組は評価できる。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 23 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価		
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号	
<p>(4) 教育実施体制の整備</p> <p>学生の多様化や社会の変化に速やかに対応するとともに、広島市立大学の教育に関する目標を実現するために必要な教育実施体制を整備する。</p>	<p>ージ分析を行い、ブランドイメージ戦略を構築するとともに、タグライン（広告等で用いるキャッチフレーズをいう。）、シンボルデザイン等を作成する。</p> <p>イ 学生の確保（小項目）</p> <p>(ア) 社会人学生について、修学年限、授業料等学生納付金を柔軟に設定できる制度を導入し、社会人が履修しやすい環境を整備する。</p> <p>(イ) 国際学研究科では、優秀な留学生を確保するため、海外学術交流協定大学の学生を対象とした推薦入試を実施する。</p> <p>(ウ) 芸術学研究科では、大学院進学者を確保するため、大学院の教育研究や大学院修了後の進路等についてのガイダンス、大学院研究成果の発表展示会の開催等の取組を進める。</p> <p>(4) 教育実施体制の整備</p>	<p>○アンケートの調査結果を踏まえたブランドイメージ戦略の検討</p> <p>○長期履修制度の導入、当該制度に基づく社会人学生募集の開始</p> <p>○海外学術交流協定大学の学生を対象とした推薦入試の検討</p> <p>○大学院ガイダンスの充実及び芸術資料館における作品展示の実施</p>	<p>がら、各研究科の特色を生かす構成にした。また、英語版の大学院案内の作成については、日本語版と同様の規格にしてデザイン性の向上を図るとともに、海外からの留学生をターゲットにした内容にするため、平和研究所に係る情報や留学における日常生活支援に係る情報を掲載するなど情報の充実を図った。このため、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p> <p>小項目評価</p> <p>○平成 23 年 6 月から国際学研究科及び情報科学研究科において、平成 22 年度に整備した長期履修制度に基づく社会人学生の募集を開始した。</p> <p>○国際学研究科では、当初、海外学術交流協定大学の学生を対象とした推薦入試制度を検討することにしていたが、平成 24 年度秋季入学試験から国際学研究科において同入試制度を導入するまでに至った。</p> <p>○芸術学研究科では、進学希望学生を対象とした担当教員によるガイダンスの実施、学部生を対象とした修了制作作品の公開プレゼンテーションの実施、芸術資料館における博士前期・後期課程の大学院生の作品の展示等の取組を行った。</p> <p>以上のように、計画を前倒して実施した取組として優れたものと評価した海外学術交流協定大学を対象とした推薦入試制度の導入を始めとして、学生の確保を図るための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>				
	<p>ア 教職員の配置等（小項目）</p> <p>(ア) 大学の教育目標を実現するため、全学的かつ中長期視点から教職員を戦略的かつ機動的に任用し、配置する。</p> <p>(イ) 学生の多様化に対応したきめ細かい教育を実施するため、ティーチングアシスタント（大学院生が教育</p>	<p>○教職員の戦略的かつ機動的な任用、配置</p> <p>○TA、RA 等の教育支援体制の整備</p>	<p>小項目評価</p> <p>○大学の教育目標を実現するため、全学的かつ中長期視点から年度中途に特任教員を採用するなど、教職員の戦略的かつ機動的な任用、配置を行った。</p> <p>○学生の多様化に対応したきめ細かい教育を実施するため、情報科学部と芸術学部のみ導入していた TA（ティーチング・アシスタント）制度について、平成 24 年度から全学部、大学院全研究科の実験、実習、演習等の授業科目に導入することにし、これに伴う関係規程を整備した。</p> <p>以上のように、教職員の配置等に係る取組を計画どおり着実に実施</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学生の確保を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○芸術学部の取組は意欲的である。</p>	B	
				<p>小項目評価</p> <p>○大学の教育目標を実現するため、全学的かつ中長期視点から年度中途に特任教員を採用するなど、教職員の戦略的かつ機動的な任用、配置を行った。</p> <p>○学生の多様化に対応したきめ細かい教育を実施するため、情報科学部と芸術学部のみ導入していた TA（ティーチング・アシスタント）制度について、平成 24 年度から全学部、大学院全研究科の実験、実習、演習等の授業科目に導入することにし、これに伴う関係規程を整備した。</p> <p>以上のように、教職員の配置等に係る取組を計画どおり着実に実施</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>教職員の配置等についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○全学的に非常に戦略的な教員の配置ができるようにしていることは評価できる。</p>	B

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価		
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号	
	の補助を行う制度をいう。)、リサーチアシスタント(大学院生が研究の補助を行う制度をいう。)等の教育支援体制を整備、拡充する。			したことから、「b」と評価した。			
	<p>イ 教育環境の整備(小項目)</p> <p>(ア) 学生の多様なニーズ等に的確に対応するため、各附属施設間の連携を強化し、情報共有、施設及び設備の共同利用、イベントの共同開催等に取り組む。</p> <p>(イ) すべての講義室において視聴覚教材が使用できる環境を整備する。</p> <p>(ウ) 平和研究所の教育への参画、平和研究所と各学部及び研究科との連携を強化するため、平和研究所の大学敷地内への移転に取り組む。</p>	<p>○イベントの共同開催</p> <p>○視聴覚設備の順次更新</p> <p>○平和研究所の大学敷地内への移転に係る検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>○平成23年6月及び平成24年1月に、附属図書館及び語学センターにおいて映画上映会を共同で開催するなど、各附属施設間の連携強化に取り組んだ。</p> <p>○平成22年度に全ての講義室において視聴覚教材が使用できる環境を整備し、平成23年度以降老朽化した設備を順次更新することにしてきたが、学生の利用頻度が高い芸術資料館演習室における視聴覚設備の整備を優先して実施した。</p> <p>○平和研究所と各学部及び研究科との連携を強化するため、平和研究所の移転時期、方法、場所等に係る詳細な検討を行い、平成24年度中に情報科学部棟別館へ暫定的に移転することにした。</p> <p>上記に掲げる取組のうち、視聴覚設備が使用できる環境の整備については、学生の利用頻度を考慮し、全学的な調整を図った上で優先して実施したものであること、平和研究所の大学敷地内への移転については、計画では当初「検討」までとしていたものを、理事長(学長)のリーダーシップの下、現在学部が使用しているスペースを移転先として決定するまでに至ったことから、優れた取組を実施したものととして、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>教育環境の整備について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A	
	<p>ウ 芸術情報の利用環境の整備(小項目)</p> <p>(ア) 芸術資料館の所蔵品をデータベース化するなど、芸術情報を有効に利用することができる環境を整備する。</p> <p>(イ) 学生に専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせるため、芸術資料館の企画等による美術鑑賞事業を実施する。</p>	<p>○所蔵品のデータベースの作成</p> <p>○美術鑑賞事業の実施</p>	<p>小項目評価</p> <p>芸術資料館の所蔵品のデータベース化、ひろしま美術館又は広島市現代美術館との共催による「いちだい知のトライアスロン」関連イベントの開催を始めとして、芸術情報の利用環境の整備に取り組むなど、芸術情報の利用環境の整備に係る取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>芸術情報の利用環境の整備について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○芸術資料館所蔵品のデータベース化を始めとした芸術情報の利用環境を整えたことは、今後の学生の教育を考えると、優れた実績である。</p>	A	

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>2 学生への支援に関する目標</p> <p>すべての学生が心身ともに健康で充実した大学生活を送ることができるよう、学習や生活環境、健康管理、進路、課外活動等様々な面で適切な支援を行う。</p>	<p>2 学生への支援（大項目）</p> <p>(1) 学習支援（小項目） 新入生の大学への適応が円滑に進むよう、オリエンテーションの充実を図るとともに、チューターによるきめ細かい学習支援及び相談を行う体制を整備する。（再掲）</p> <p>(2) 日常生活支援（小項目） 学生の日常生活を支援するため、学生会館の機能の拡充、大学周辺への店舗の誘致等に取り組む。</p> <p>(3) 健康の保持増進支援（小項目） 学生の心身の健康の保持増進を図るため、教職員と医</p>	<p>○チューター制度の見直し</p> <p>○学生会館の機能拡充に係る検討</p> <p>○保健管理室の設置及び専任のカウンセラーの</p>	<p>大項目評価</p> <p>学生の心身の健康の保持増進を図るための優れた取組として評価した保健管理室の設置及び専任のカウンセラー（臨床心理士）の配置等による支援体制の整備を始めとして、就職活動期間終了後という困難な状況下において内定を獲得するという成果を得ることができた就職指導・支援体制の強化など、学習や生活環境、健康管理、進路、課外活動等様々な面で学生を支援するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>○「ギャラリートーク」等の美術鑑賞事業への参加者数に見られるように、利用環境整備の成果を挙げている。</p> <p>〔評価理由〕 学生への支援全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 ○大学の規模にあった努力は十分に行っており、そこから急な改善も想定できないと思われる。</p>	A
			<p>小項目評価</p> <p>当初予定していたチューター制度の全学への導入については今後の課題とした上で、学生に対する学習支援等の教員向け手引を全学共通の内容で作成することにし、全学の学生委員会委員及び教務委員会委員で構成するワーキンググループを設置して内容等の検討を行った。 以上のように、よりきめ細かい学習支援及び相談を行うため、計画に掲げた取組内容を変更したものであることから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕 学習支援について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 ○問題学生の早期発見のため、出席状況や単位取得、成績等に表れる予兆の検知など、ワーキンググループにおいて、きめ細かな検討を行っている。</p>	A
			<p>小項目評価</p> <p>サークル、クラブ等の課外活動団体関係者に対する学生会館、部室等の利用に係るアンケート調査や他大学の施設を現地調査するなど、学生会館の機能拡充に係る検討を行った。 以上のように学生の日常生活を支援するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕 学生の日常生活を支援するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B
			<p>小項目評価</p> <p>学生の心身の健康の保持増進を図るため、教員を室長とする保健管理室を設置し、専任のカウンセラー（臨床心理士）を配置するとともに、室長、保健師、看護師及び臨床心理士による保健管理室ミーテ</p>	a	<p>〔評価理由〕 学生の心身の健康の保持増進について優れた取組を実施したと認められることから、</p>	A

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	務室及び学生相談室との連携を強化するとともに、カウンセラーによる相談時間を増やすなど、医務室及び学生相談室の機能を拡充する。	配置	<p>イングを年間25回実施した。</p> <p>以上のように、専任のカウンセラー配置に伴う相談時間の増加や定期的なミーティングの開催に伴う保健管理室職員の連携強化により、様々なケースへの迅速かつ的確な対応が可能になったことなどから、優れた取組を実施したものととして、「a」と評価した。</p>		「A」と評価した。	
	<p>(4) 就職支援（小項目）</p> <p>ア 教職員が連携して個々の学生の資質、希望を的確に把握し、指導する体制を整備する。</p> <p>イ 卒業生による就職セミナー等学生に対する就職支援事業の企画内容を工夫するとともに、学生に対してよりきめ細かい就職関連情報を提供する。</p>	<p>○就職指導・支援体制の整備</p> <p>○就職関連情報の学生への提供</p>	<p>小項目評価</p> <p>○就職指導・支援体制を強化するため、キャリア・カウンセリングに関する資格を有する就職相談員（1名）を平成24年4月に配置することにした。</p> <p>○4年生の未内定者を対象として、就職活動期間終了後の平成23年8月に面接対策のセミナーを、平成23年9月に広島県と共催で学内合同企業説明会を開催するなどの取組を行った。</p> <p>以上のように、増大する就職指導・支援業務に迅速かつ的確に対応するため、現行の事務局体制を見直した上で職員を配置したこと、また、上記のセミナー等の開催により、就職活動期間終了後の内定を得ることが非常に困難な状況下において、7名の学生が内定を得るという成果を得ることができたことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>学生の就職支援について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A
	<p>(5) 課外活動支援（小項目）</p> <p>学生のクラブ及びサークル活動、ボランティア活動、自主的な研究、創作及び発表活動を奨励し、支援するための制度の充実を図る。</p>	○課外活動支援制度の見直し、制度の充実	<p>小項目評価</p> <p>学生のクラブ及びサークル活動費助成制度の見直しを行うなど、学生の課外活動を支援するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学生の課外活動を支援するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B
	<p>(6) 経済的支援（小項目）</p> <p>優秀な学生に対して授業料を減免するなどの特待生制度を導入する。</p>	○特待生制度の検討	<p>小項目評価</p> <p>入学試験成績の上位者に対し授業料等を減免する特待生制度の導入に係る検討を行った結果、優秀な学生の確保といった効果が余り見込まれないことから、制度の導入を見送ることにした。</p> <p>以上のように、学生の経済的支援のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学生の経済的支援のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B
	<p>(7) 留学生支援（小項目）</p> <p>留学生の宿舎を確保するため、学生寮及び教員住宅の有効活用を図るとともに、独立行政法人日本学生支援機構の留学生借り上げ宿舎支援事業、財団法人日本国際教</p>	<p>○留学生の民間アパートへの入居あっせん</p> <p>○機関補償制度導入の検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>入居期間が短期であり、民間アパートへの入居が困難である海外学術交流協定大学からの留学生について、優先して学生寮又は留学生会館への入居をあっせんするとともに、その他学生寮等に入居できない留学生については、民間アパートへの入居をあっせんするなど、留学生の宿舎の確保を図った。また、広島県留学生生活躍支援センターによる機関補償制度の活用を検討するとともに、その他機関補償制度への</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>留学生支援について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○現時点でなし得る努力は十分に行っている。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 23 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
3 研究に関する目標 研究の活性化を目指し、外部資金の積極的な獲得と活用に努めるとともに、サバティカル制度（教員が一定期間研究に専念する研修制度をいう。）を導入する。また、地域産業の活性化につながる研究、地域課題に関する実践的な研究、平和をテーマとした研究等を重点研究分野として、個性的な研究活動や学内外との研究交流を積極的に展開し、その成果を教育に反映させるとともに、社会に還元する。	育支援協会の留学生住宅総合補償制度等の活用を進める。 3 研究（大項目） (1) 研究活動の活性化と成果の普及 ア 研究活動の活性化（小項目） (ア) 教員の研究活動を奨励するため、サバティカル制度（教員が一定期間研究に専念する研修制度をいう。）を導入する。 (イ) 科学研究費補助金等外部資金の申請率、採択率の向上を図る。	○サバティカル制度導入の検討 ○外部資金獲得研修会の開催	導入に係る検討を行った。 以上のように、留学生の支援のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。			
			大項目評価 外部資金の申請率及び採択率の向上を図るための研修会の開催など、研究活動の活性化を図るとともに、学部叢書の発行、国のプロジェクト等の受託研究・共同研究、展示会及び講演会の開催など、全学を挙げて研究成果の普及及び還元に取り組んだ。 特に、サバティカル制度（教員が一定期間研究に専念する研修制度をいう。）の導入については、当初予定していた計画を前倒しして制度設計に取り組み、平成 24 年度からの本格導入を実現した。 また、情報科学部及び情報科学研究科における研究成果に係る特許出願等の手続件数の大幅な増加や、芸術学部及び芸術学研究科における外部資金を活用した研究発表活動件数の大幅な増加は、研究活動の活性化並びに研究成果の普及及び還元に大きく貢献した。 以上のように、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。	a	〔評価理由〕 研究全般に関する取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 〔コメント〕 ○努力は評価できるが、研究成果がもっと社会的に認知されることが望まれる。 ○学生募集の起爆剤になるだけの成果が表れているであろうか。もう少し頑張ってもらいたいという激励の減点である。 ○一大学だけでやっていたのではいずれ立ち行かなくなる。他大学から共同研究のパートナーに選んでもらう努力がまだまだ必要である。	B
			小項目評価 ○サバティカル制度の設計を行い、平成 24 年度の本格導入に向け関係規程を整備した。 ○平成 23 年 9 月及び平成 24 年 2 月に外部資金獲得研修会を開催し、科学研究費補助金等外部資金の申請率及び採択率の向上に取り組んだ。 【平成 23 年度外部資金申請率等実績：申請率 63.1%(64.4%)、採択率 48.8%(48.8%)、獲得金額(間接経費を含む)117,974 千円(116,040 千円)、※（ ）は平成 22 年度実績】 ○情報科学部及び情報科学研究科では、専攻を越えた共同研究や学外	a	〔評価理由〕 研究活動の活性化について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 ○情報科学部の取組は、主旨に沿って積極的になされている。 ○芸術学部の取組は極めて意	A

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>(ウ) 外部資金を含めた研究費を弾力的かつ効果的に執行するための制度を導入する。</p> <p>(エ) 国際学部及び国際学研究科では、研究活動における学内外との連携を強化するため、客員研究員や共同研究者のための研究スペースを確保する。</p> <p>(オ) 情報科学部及び情報科学研究科では、社会へ発信する知的財産を効率的に創出するため、大学として取り組むべき基盤的研究及び時代のニーズに適合した先端的・革新的なプロジェクト研究に対し、研究費等を重点的に配分する。また、専攻を越えた共同研究や学外との共同研究に対し、教員研究費の一部を毎年度重点的に配分する。</p> <p>(カ) 芸術学部及び芸術学研究科では、展覧会の開催等の研究発表活動を積極的に推進する。</p> <p>(キ) 平和研究所では、研究活動の活性化を図るため、プロジェクト研究等への学外の研究者の積極的な参画を促進する。</p> <p>イ 研究成果の普及及び還元 (小項目)</p> <p>(ア) 国際学部及び国際学研</p>	<p>○プロジェクト研究、共同研究に対する教員研究費の重点配分</p> <p>○外部資金の獲得による研究発表活動の促進</p> <p>○教員・学生による展覧会の開催等の研究発表活動の積極的な推進</p> <p>○学外研究者の受入促進</p> <p>○国際学部叢書の年次刊</p>	<p>との共同研究、社会連携及び外部資金獲得を促進する研究に対し、教員研究費の一部を重点的に配分した。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、科学研究費補助金及び財団助成金等の外部資金を活用し、教員による展覧会活動、論文発表及び講演会活動等の研究発表（57件）や、学生による展覧会発表（7件）を行った。また、上記外部資金の活用を除くものとして、教員や学生による個展及びグループ展の開催等の研究発表活動（258件（平成22年度は138件））を行った。</p> <p>○平和研究所では、ワークショップや研究会の開催等により、プロジェクト研究等への学外の研究者の積極的な参画を促進した。</p> <p>上記に掲げる取組のうち、サバティカル制度の導入については、計画では「検討」までとしていたものを制度設計を行い、関係規程の整備にまで至ったこと、また、外部資金獲得については、研修会を一般公開とするなど内容を充実したことにより前年度実績を維持したこと、さらに、芸術学部及び芸術学研究科における研究発表活動件数が前年度に比べ大幅に増加したことなど、研究活動の活性化に大きく貢献したことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>		<p>欲的になされている。</p>	
			<p>小項目評価</p> <p>○国際学部及び国際学研究科では、国際学部専任教員3名、国際学研究科博士後期課程学生2名及び学外者5名の共著により学部叢書シ</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究成果の普及及び還元についての取組を計画どおり着</p>	B

中期目標	中期計画	平成 23 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>究科では、研究成果普及の一環として平成 20 年度(2008 年度)に創刊した国際学部叢書を定期的に刊行する。また、学内競争的資金である特定研究費を活用した共同研究の促進を図り、その成果を国際学部叢書として刊行する。さらに、開学以来刊行しているジャーナル「広島国際研究」をホームページで公開し、幅広く研究成果を社会に還元する。</p> <p>(イ) 情報科学部及び情報科学研究科では、研究公開イベントへの出展、特許出願、企業からの技術相談、共同研究等を通じて研究成果を社会に普及し、還元する。</p> <p>(ロ) 芸術学部及び芸術学研究科では、芸術資料館において卒業制作優秀作品の展示会、大学院研究成果の発表展示会の開催等を行う。</p> <p>(ハ) 平和研究所では、学術研究成果を大学教育に反映させるとともに、出版活動や公開講座、シンポジウム、講演会等を通じ、その成果の社会への積極的な普及を図る。</p> <p>(ニ) 附属図書館では、教員の研究成果、博士論文等を機関リポジトリ（大学等の研究機関が研究成果を電子デ</p>	<p>行</p> <p>○「広島国際研究」のホームページ公開</p> <p>○研究公開イベントへの出展</p> <p>○特許出願、共同研究を通じて研究成果の社会への普及・還元</p> <p>○芸術資料館における卒業制作優秀作品の展示会、大学院研究成果の発表展示会の開催</p> <p>○出版活動や公開講座、シンポジウム、講演会、ニューズレター等を通じた学術研究成果の社会への積極的な普及</p> <p>○博士論文等の機関リポジトリ登録の開始</p>	<p>リーズ第 4 巻「日・中・韓三国の伝統的価値観の位相（溪水社）」を発刊した。また、平成 23 年 11 月に第 17 巻を刊行した学部紀要「広島国際研究」の採択論文について、当該刊行に合わせて大学リポジトリサイト（リポジトリ：大学等の研究機関が研究成果を電子データとして集積し、保存し、公開するためのシステムをいう。）を通じて公開した。</p> <p>○情報科学部及び情報科学研究科では、インテレクチャル・カフェ広島やリエゾンフェスタ 2011 等の研究公開イベントへの出展（出展件数：65 件（平成 22 年度は 60 件））を行ったほか、JST（独立行政法人科学技術振興機構）、NICT（独立行政法人情報通信研究機構）、SCOPE（戦略的情報通信研究開発推進制度：総務省の情報通信技術（ICT）分野の研究開発における競争的資金制度）等国のプロジェクトの受託研究又は共同研究を実施するとともに、研究成果に係る特許出願等の手続（24 件（平成 22 年度は 11 件））を行った。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、平成 23 年 4 月から計 10 回にわたり、芸術資料館において卒業制作優秀作品の展示会及び大学院研究成果の発表展示会を開催した（参加者数及び入場者数計：2,773 名（平成 22 年度は 1,007 名））。</p> <p>○平和研究所では、教員の出版活動（出版数：6 冊）や、平成 23 年 5 月及び 10 月に開催した連続市民講座、平成 23 年 11 月に開催した国際シンポジウム「問われる被爆地・被ばく国の役割－3.11 原発事故を受けて」、講演会等を通じ、学術研究成果の社会への積極的な普及を図った。</p> <p>○附属図書館では、博士論文の機関リポジトリ登録を実施した。</p> <p>以上のように、各学部、各研究科及び平和研究所と全学を挙げて計画に取り組んだことに加え、特に、情報科学部及び情報科学研究科における特許関連の手続件数、芸術学部及び芸術学研究科における上記展示会の参加者数及び入場者数が前年度に比して大幅に増加しており、研究成果の普及及び還元に大きく貢献したことから、「a」と評価した。</p>		<p>実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○情報科学部、芸術学部、平和研究所の研究成果の普及活動は昨年度に比し向上しているが、研究成果を測る指標として、昨年度との比較だけをしていたのでは、やがて先細りしてくる。</p> <p>○問題は定常状態のレベルであり、もっと頑張って成果を出す実力があるのではないか。</p> <p>○努力は評価できるが、研究成果がもっと社会的に認知されることが望まれる。</p>	

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
4 社会貢献に関する目標 教育研究成果を社会に還元するため、社会連携センターを中心とした窓口として、学外研究機関、企業、NPO、地域コミュニティ等との交流及び連携を積極的に推進する。また、広	<p>ータとして集積し、保存し、公開するためのシステムをいう。)により公開する。</p> <p>(2) 研究体制の強化(小項目)</p> <p>ア 「産学公民」連携につながる研究を推進するため、社会連携センターにプロジェクト研究推進室を設置する。</p> <p>イ 研究費を戦略的に配分できる仕組みを構築する。</p> <p>ウ 平和研究所では、被爆体験の思想化や原爆投下による広島、長崎の被害の問題等核兵器に関する諸問題の研究を重点研究領域とした研究体制を強化する。</p> <p>エ 附属図書館では、研究における利便性を向上させるため、専門分野の電子ジャーナルやデータベースの充実を図るとともに、データベース横断検索ソフト等を計画的に導入する。</p>	<p>○日本軍縮学会、日本平和学会等原爆や核に関する諸問題を扱う学会における研究員活動の促進</p> <p>○電子ジャーナル等の収集方針の策定</p> <p>○収集方針に基づく専門分野の電子ジャーナル等の見直し</p>	<p>小項目評価</p> <p>○平和研究所では、原爆や核に関する諸問題を扱う学会における研究活動を促進するなど、被爆体験の思想化や原爆投下による広島、長崎の被害の問題等核兵器に関する諸問題の研究を重点研究領域とした研究体制の強化を図った。</p> <p>○附属図書館では、電子ジャーナル等の収集方針を策定するとともに、専門分野の電子ジャーナルのトライアルを実施しながら当該収集方針に基づく見直しを行った。</p> <p>以上のように、研究体制の強化のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究体制の強化のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B
			<p>大項目評価</p> <p>中期計画に掲げる重点取組項目である「社会連携センターを中心とした「産学公民」連携の推進」及び「広島市及び関係機関と連携した平和の推進、文化の振興及び地域経済の活性化等の取組」を中心に、計画に掲げる取組を着実に実施した。</p> <p>特に、多様な講座の開催や市民講座の派遣等を通じて多くの市民に学習機会を提供するとともに、広島市の「知」の拠点として、広島市の附属機関等の委員への就任、講演会への講師派遣、広島市との行政課題解決のための共同事業の実施や、広島市内外における地域展開型の芸術プロジェクトの実施など、行政課題の解決、産業振興及び芸術振興に大き</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>社会貢献全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○大学の規模を考えると、期待されている以上の成果を挙げている。</p> <p>○教員のみならず、学生自身が社会に貢献することを大</p>	A

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
島市の「知」の拠点としての地位を確立するため、提言、施策立案、技術供与等を通じて、地域行政課題の解決及び都市機能の強化に貢献する。さらに、広く市民に生涯学習の場を提供するため、公開講座の充実等に取り組むとともに、広島市職員、小中高等学校教員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。	<p>(1) 生涯学習ニーズへの対応 (小項目)</p> <p>ア 市民の生涯学習ニーズに対応するため、公開講座の開催、市民講座への講師派遣等に積極的に取り組む。また、リカレント教育（社会人が大学院等で高度な知識、技能を習得するための教育をいう。）を推進するため、社会人講座等の充実を図る。</p> <p>イ 休日、夜間に市民向けの講座等を開催するため、平和研究所等の施設を活用し、市中心部にサテライトキャンパスを設置する。</p>	<p>○公開講座の開催、市民講座への講師派遣</p> <p>○改善策の検討・実施</p> <p>○サテライトキャンパスの設置の検討</p>	<p>く貢献した。また、知的財産担当の特任教員の配置等による社会連携センターの機能強化を図ったことなどにより、特許出願件数が前年度に比べて大幅に増加するなど、十分な成果を得ることができた。</p> <p>したがって、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>		<p>学として奨励し、支援していることは素晴らしいことである。</p>	
			<p>小項目評価</p> <p>○市民の生涯学習ニーズに対応するため、以下に掲げるとおり公開講座を開催するとともに、市民講座への講師派遣を行った。また、情報科学部の連続講義について、より多くの参加者を集めるための方策として、オープンキャンパス及びミニ・オープンキャンパスと同日で開催するなどの改善を図った。</p> <p>①国際学部公開講座「多様な中東・イスラム世界を学び・感じ・つなぐ」 （平成23年11月開催：参加者数67名）</p> <p>②情報科学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会（平成23年11月開催：参加者数23名） ・連続講義（平成23年8月、10月開催：参加者数43名） ・高校生の情報科学自由研究（平成23年7月、8月開催：参加者数49名） <p>③芸術学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般向け （日本画、油絵、版画、彫刻、現代表現、漆：平成23年7月～9月開催：参加者数98名） ・サマースクール （日本画、油絵、彫刻、デザイン工芸：平成23年7月、8月開催：参加者数66名） ・社会人向け工芸・版画技能講座 	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>生涯学習ニーズへの対応について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 23 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>(金工、染織、版画：平成 23 年 4 月～平成 24 年 1 月開催：参加者数 15 名)</p> <p>④シティカレッジへの講座提供 (東日本大震災と私たち：平成 23 年 10 月～11 月開催：参加者数約 120 名)</p> <p>⑤SPP (サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト JST 補助事業) (平成 23 年 6 月～10 月実施：参加者数 24 名)</p> <p>○サテライトキャンパスの設置について、平和研究所の大学敷地内への移転に伴う空きスペースその他候補地の選定等に係る検討を行った。 上記に掲げる取組のうち、公開講座の開催及び市民講座への講師派遣については、開催回数実績及び参加者数実績ともに多く、市民の生涯学習ニーズへの対応に大きく貢献したことから、優れた取組を実施したものと、「a」と評価した。</p>			
	<p>(2) 「産学公民」連携の推進 ア 地域産業界との連携（小項目）</p> <p>(ア) 社会連携センターを中心的な窓口として、企業等からの受託研究及び企業等との共同研究に積極的に取り組む。</p> <p>(イ) 先進的な ICT システムの構築により蓄積されたノウハウ等を、技術相談や技術支援等を通じて企業や地方自治体等に提供し、高等教育研究機関としてのリーダーシップを発揮する。</p>	<p>○受託研究・共同研究の推進</p> <p>○改善策の検討・実施</p> <p>○技術相談支援等の推進</p>	<p>小項目評価</p> <p>社会連携センターを中心的な窓口として、企業等からの受託研究及び企業等との共同研究に取り組んだ。また、戦略的かつ積極的に外部資金を獲得するためには、企業等からの依頼のみに頼ることなく、公募型の受託研究及び共同研究に対して申請をしていく必要があることから、平成 24 年 2 月に教員等を対象に研修会を開催し、採択率向上につながるアドバイス等を紹介した。さらに、総務省「西日本地域における ICT を利活用した協働教育の推進に関する調査研究」の請負事業に係る協議会への参画等により、先進的な ICT システムの構築により蓄積されたノウハウ等を企業や地方自治体等に提供した。</p> <p>【平成 23 年度受託研究・共同研究実績：() 内数値は平成 22 年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託研究:①件数:21 件(21 件)、②研究費計:29,537 千円(101,420 千円) ・共同研究:①件数:12 件(16 件)、②研究費計:33,709 千円(44,681 千円) <p>以上のように、社会連携センターを中心的な窓口として企業等との調整を行うとともに、公募型の受託研究及び共同研究の申請に係る研修会の開催に取り組んだ結果、受託研究及び共同研究について、法人化初年度で大幅に増加した前年度実績並みの件数を維持したことか</p>	b	<p>【評価理由】 地域産業界との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>【コメント】 ○受託研究、共同研究ともに積極的な取組が継続されている。 ○情報科学部の意欲的な取組が見られる。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 23 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>イ 国、地方自治体等との連携（小項目）</p> <p>(ア) 附属機関等の委員への就任、講師の派遣、行政課題の解決や人材育成等のための共同事業の実施等により、国、地方自治体、特に広島市との連携強化に取り組む。</p> <p>(イ) 広島市職員、小中高等学校教員等を大学院生、研究員等として受け入れるなど、広島市職員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。</p> <p>(ウ) 財団法人広島平和文化センターと連携し、「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の展示等への学術支援等を行うなど、平和の推進に貢献する。</p> <p>(エ) 財団法人広島市文化財団と連携し、広島市現代美術館との共同事業を行うなど、広島市の芸術振興に貢献する。</p> <p>(オ) 財団法人広島市産業振興センターと連携し、ICTをはじめとした様々な分野での技術支援を行い、広島市の産業振興に貢献する。</p>	<p>○附属機関等の委員への就任、講師派遣</p> <p>○行政課題の解決、人材育成等のための共同事業の実施</p> <p>○広島市職員等を対象とした研修制度の検討</p> <p>○大学事務職員を対象とした研修の試行的実施</p> <p>○「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の調査や展示等への学術支援等</p> <p>○地域美術館との連携</p> <p>○ICT 関連機関への委員就任</p> <p>○ICT 関連講演会への講師派遣、共同事業の実施</p> <p>○地域自治体や産業界への技術相談支援、イベントへの ICT 活用技術</p>	<p>ら、「b」と評価した。</p> <p>小項目評価</p> <p>○以下の実績のとおり、附属機関等の委員への就任及び講演会への講師派遣を行った。</p> <p>【平成 23 年度実績：() 内数値は平成 22 年度実績】</p> <p>①広島市等の審議会委員等への就任【127 機関（123 機関）】</p> <p>②講演会への講師派遣【54 件（41 件）】</p> <p>○以下の実績のとおり、広島市その他の行政機関と行政課題解決のための共同事業を実施した。</p> <p>【平成 23 年度実績：() 内数値は平成 22 年度実績】</p> <p>件数：17 件（14 件）、事業経費：17,197 千円（12,905 千円）</p> <p>○平成 23 年 11 月に広島市派遣職員である事務職員を対象にアンケート調査を実施するとともに、当該アンケート結果に基づき、広島市職員等を対象にした研修の内容、手法等の検討を行った。また、平成 24 年 1 月から、事務職員（3 名）に対して TOEIC の受験を含む英語研修を試行的に実施した。</p> <p>○広島市及び広島市関係団体等における ICT 関連機関の委員に就任した（13 機関）ほか、地域自治体及び産業界への技術相談支援並びにイベントへの ICT 活用支援を行った（50 件）。</p> <p>○平成 23 年 5 月以降 3 回にわたり、「いちだい知のトライアスロン」関連イベントとして、ひろしま美術館又は広島市現代美術館との共催により、一般市民も参加可能な公開の講演会及びギャラリートークを開催した。また、平成 23 年 8 月以降 3 回にわたり、広島市現代美術館においてキッズキャンパスの鑑賞プログラム・ワークショップを開催した。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、広島市内の公民館との連携による公開講座、尾道市での現代アートを通じた地域活性化プロジェクト「広島アートプロジェクト」の開催など、地域社会等との連携による地域展開型の芸術プロジェクトを実施した。</p> <p>○平和研究所では、以下のとおり、「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の展示等の学術支援等を行った。</p> <p>【平成 23 年度実績：() 内数値は平成 22 年度実績】</p> <p>①審議機関等の委員等への就任【3 機関（3 機関）】</p> <p>②「広島・長崎講座」への協力【10 講座（4 講座）】</p> <p>③市民向け講座への協力【6 回（6 回）】</p> <p>以上のように、広島市の「知」の拠点として、特に広島市と連携し、</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>国、地方自治体等との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		支援 ○地域展開型の芸術プロジェクトの実施	施策提言及び立案、技術供与等を通じた行政課題の解決等に積極的に取り組み、広島市の平和の推進、産業振興及び芸術振興に大きく貢献したことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。			
	<p>ウ 学術機関及び研究機関との連携（小項目）</p> <p>(ア) 国際学部及び国際学研究科では、国内外の研究者との共同研究やプロジェクト研究等への参画を推進するとともに、研究交流を通じて、海外学術交流協定大学との連携強化に取り組む。また、関係機関と連携し、公開講座やインターンシップ等の充実を図る。</p> <p>(イ) 情報科学部及び情報科学研究科では、広島大学、広島工業大学との連携プログラム「医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材育成」（平成21年度(2009年度)文部科学省採択事業）を推進し、情報科学、医学、工学の知識を有した人材を育成する。</p> <p>(ロ) 芸術学部及び芸術学研究科では、卒業修了制作展の開催等を通じ、広島市現代美術館等の地域の美術館との連携強化に取り組む。</p> <p>(エ) 平和研究所では、国内外の大学及び研究機関との連携を一層強化するため、共同研究の実施やプロジェクト研究等への参画を通じた研究交流の推進</p>	○共同研究、プロジェクト研究等への参画の推進 ○研究交流を通じた海外学術交流協定大学との連携強化 ○関係機関との連携による公開講座、インターンシップの充実 ○情報医工学プログラムの実施、プログラム履修生の育成 ○広島市現代美術館における卒業修了制作展の開催 ○共同研究の実施やプロジェクト研究等への参画を通じた研究交流の推進	<p>小項目評価</p> <p>○国際学部及び国際学研究科では、国内外の研究者との共同研究(63件)及びプロジェクト研究(17件)に参加した。また、海外学術交流協定大学である西南大学(中国)と日本・中国・韓国の伝統的価値観に関する共同研究を実施するとともに、当該研究成果を叢書として発刊した。さらに、広島市関連団体や他の自治体等が主催する公開講座、講演等(53件)に、教員が講師として参加した。</p> <p>○情報科学部及び情報科学研究科では、広島大学、広島工業大学との連携プログラム「医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材育成」(平成21年度(2009年度)文部科学省採択事業)を実施した。</p> <p>○広島市現代美術館等の地域の美術館との連携強化を図るため、平成23年5月以降3回にわたり、「いちだい知のトライアスロン」関連イベントとして、ひろしま美術館又は広島市現代美術館との共催により一般市民も参加可能な公開の講演会及びギャラリートークを開催した。また、芸術学部及び芸術学研究科では、平成24年3月に広島市現代美術館において第15回芸術学部卒業・修了作品展を開催した。</p> <p>○平和研究所では、国内外の大学及び研究機関との連携を一層強化するため、共同研究の実施やプロジェクト研究等への積極的な参画を通じた研究交流を推進した。</p> <p>以上のように、学術機関及び研究機関との連携強化に係る取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学術機関及び研究機関との連携強化についての取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	ト研究等への参画を通じた 研究交流を積極的に推進す る。 エ 小中高等学校等との連携 (小項目) (ア) 市内の小中高等学校に 対する学習支援、教員のリ フレッシュ教育（大学、大 学院等の高等教育機関が、 職業人に職業上の知識、技 術を新たに修得させること を目的とした事業をいう。） 等に取り組む。 (イ) 広島市職員、小中高等学 校教員等を大学院生、研究 員等として受け入れるな ど、広島市職員等の研修機 関としての役割を積極的に 果たす。（再掲） (3) 社会連携センターの機能 の充実 ア 社会連携センターの体制 整備（小項目） 多様化する「産学公民」 連携のニーズに迅速に対応 し、効果的に事業を実施す るための組織体制を整備す る。 イ 学部及び研究科の「産学 公民」連携や社会貢献の取 組に対する支援（小項目） (ア) 展示会への出展やメー ルマガジンの配信等様々な	○市内の小中高等学校に 対する学習支援の実施 ○広島市職員等を対象と した研修制度の検討 ○大学事務局職員を対象 とした研修の試行的実 施 ○組織体制の整備 ○展示会への出展等の広 報活動、技術相談の実	小項目評価 ○小学生に高度で発展的な情報科学の先端に直接触れる機会を提供 するプログラム「未来の科学者養成講座」を開催したほか、中高校 生を対象にした日本画・油絵・彫刻・デザイン工芸に係る講座を開 催するなど、市内の小中高等学校に対する学習支援を行った。 ○平成23年11月に大学事務職員を対象に、大学独自の研修を検討す るためのアンケート調査を実施し、当該アンケート結果に基づき、 小中高等学校教員等を対象にした研修の内容、手法等の検討を行う とともに、教育委員会との協議、調整を行った。 以上のように、小中高等学校等との連携強化を図るための取組を計 画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。 小項目評価 平成23年4月、知的財産を担当する特任教員1名を配置するとと もに、社会連携センター事務局職員を1名増員したほか、社会連携セ ンター事務局機能を集約して、窓口を一本化した。 以上のように、組織体制の強化と機能集約により、多様化する「産 学公民」連携のニーズへの迅速かつ的確な対応が可能になったことか ら、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。 小項目評価 ○以下の実績のとおり、展示会への出展等の広報活動や技術相談の実 施等を通じて、研究成果や知的財産等の内容を積極的に発信すると ともに、地域住民、産業界、行政等のニーズとのマッチングを行っ た。	b	〔評価理由〕 小中高等学校との連携強化 を図るための取組を計画どお り着実に実施したと認められ ることから、「B」と評価した。	B
				a	〔評価理由〕 社会連携センターの体制整 備について優れた取組を実施 したと認められることから、 「A」と評価した。 〔コメント〕 ○社会連携センターの体制整 備は、法人化の目玉の一つ であり、有効に機能してい る。	A
				b	〔評価理由〕 「産学公民」連携の強化や 社会貢献の推進のための取組 を計画どおり着実に実施した と認められることから、「B」	B

中期目標	中期計画	平成 23 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>広報活動を通じて、研究成果や知的財産等の内容を積極的に発信するとともに、地域住民、産業界、行政等のニーズとのマッチングを行う。</p> <p>(イ) 「産学公民」連携推進のためのセミナーや大学と地域住民、産業界、行政等との交流促進を目的としたフォーラム等を開催する。</p> <p>(ウ) 学外の関係機関等と連携した教育研究活動等を支援する。</p> <p>(エ) 地域住民や行政等が抱える課題の解決への貢献を目的とした「社会連携プロジェクト」を学内で公募し、その取組を支援する。</p>	<p>施</p> <p>○セミナー、フォーラム等の開催</p> <p>○改善策の検討・実施</p> <p>○学外研究機関との教育研究活動等の支援</p> <p>○社会連携プロジェクトの公募、取組支援</p>	<p>【平成 23 年度展示会等出展実績】</p> <p>①平成 23 年 8 月 25 日：インテレクチャルカフェ開催（於：広島）</p> <p>②平成 23 年 9 月 15 日：ひろしまビジネスマッチングフェア 2011 出展（於：広島）</p> <p>③平成 23 年 9 月 21 日～22 日：イノベーションジャパン 2011 出展（於：東京）</p> <p>④平成 23 年 10 月 26 日～28 日：ひろしま IT 総合展出展（於：広島）</p> <p>⑤平成 23 年 11 月 2 日：産学連携フェア（於：広島）</p> <p>⑥平成 23 年 11 月 25 日：西風新都プロモーションセミナー出展（於：東京）</p> <p>⑦社会連携コーディネーター及び産学連携コーディネーターによる技術相談の実施 （随時：平成 23 年度相談件数：54 件（平成 22 年度：48 件））</p> <p>○「産学公民」連携推進のためのセミナーや大学と地域住民、産業界、行政等との交流促進を目的としたフォーラム等を開催したほか、前年度の開催実績等を踏まえ、開催準備業務の効率化及び来場者数の増加を図るため、リエゾンフェスタ 2011 及び広島市役所での研究紹介展の開催時期を近づけるなどの見直しを行った。</p> <p>○「ひろしま医工連携・先進医療イノベーション拠点事業（代表：広島大学）」の研究設備の整備を支援するなど、学外研究機関との教育研究活動等の支援を行ったほか、「広域大学知的財産アドバイザー派遣事業」に参加し、広域連携ネットワークづくりに努めた。</p> <p>○地域住民や行政等が抱える課題の解決への貢献を目的とした「社会連携プロジェクト」を学内で公募し、その取組を支援した。</p> <p>【平成 23 年度実績：（ ）内数値は平成 22 年度実績】</p> <p>応募件数：9 件（13 件）、応募総額：7,487 千円（9,443 千円）</p> <p>採択件数：8 件（10 件）、採択総額：4,570 千円（5,258 千円） （採択件数 8 件のうち、2 件 1,571 千円は、市政貢献プロジェクトとして実施）</p> <p>以上のように、「産学公民」連携の強化や社会貢献の推進のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>		と評価した。	
	<p>ウ 研究成果、学内資源等の活用（小項目）</p> <p>知的財産の創出に取り組むとともに、学内資源等を</p>	<p>○知的財産の創出の推進</p> <p>○「社会連携ポリシー」</p>	<p>小項目評価</p> <p>平成 23 年 4 月に知的財産担当の特任教員 1 名を配置したほか、以下の実績のとおり、知的財産の創出に取り組むとともに、知的財産に係る業務知識の向上を図るため、平成 23 年 8 月及び 10 月に教職員を</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究成果、学内資源等の活用について優れた取組を実施したと認められることから、</p>	A

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	適切に管理し、最大限活用するため、社会連携の基本方針を定めた「社会連携ポリシー」を策定する。	の策定	対象とした研修会を開催した。また、学内資源等を適切に管理し、最大限活用するため、社会連携の基本方針を定めた「社会連携ポリシー」を策定した。 【平成23年度特許出願等実績：()内数値は平成22年度実績】 特許出願：14件(1件)、審査請求：3件(4件)、特許登録：5件(5件)、特許を受ける権利の譲渡：2件(0件) 以上のように、研修会の開催による教職員の知的財産に係る業務知識が向上したことに加え、特許出願件数が前年度と比較して大幅に増加するなどの成果を得ることができたことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。		「A」と評価した。	
	エ 学生の育成（小項目） 「学生による社会貢献型自主プロジェクト」事業を実施し、学生に自主性や問題解決能力を身に付けさせる。	○「学生による社会貢献型自主プロジェクト」事業の実施	小項目評価 学生に自主性や問題解決能力を身に付けさせるため、以下の実績のとおり、「学生による社会貢献型自主プロジェクト」事業を実施した。 【平成23年度実績：()内数値は平成22年度実績】 ①応募件数：6件(6件)、応募総額：548千円(532千円) ②採択件数：6件(5件)、採択総額：500千円(433千円) 以上のように、学生を育成するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	【評価理由】 学生の育成について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 ○この活動自体ユニークであり、学生、教員共にそれに積極的に取り組んでいる。 ○新聞記事等の報道実績を見ると、学生は自主性をもって研究、制作発表、社会的活動を行っている。また、数々の受賞など、社会的にも高く評価されている。 ○それらの活動を支える教員等の指導も高く評価される。	A
5 国際交流に関する目標 海外学術交流協定大学との人材交流を積極的に展開するとともに、留学生への支援体制の充実を図る。	5 国際交流（大項目）		大項目評価 大学教育のグローバル化の推進が求められる中、海外の学術交流協定大学を対象にした推薦入試制度の導入や、レンヌ第2大学（フランス）との学術交流協定の締結は、全学を挙げて取り組んだ成果であり、中期計画に掲げる「海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開」に大きく貢献するものであること、また、派遣学生数及び受入学生数の増加に寄与するものであることから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。	a	【評価理由】 国際交流全般に関する取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 〔コメント〕 ○努力の跡はうかがえ、成果も一定の評価ができるが、教員・学生の国際的構成や	B

中期目標	中期計画	平成 23 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価		
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号	
						カリキュラムの国際水準化には一層の工夫が必要である。 ○広島には地域に根ざした特殊な個性があり、世界に発信できる。そういう意味では、もっとレベルを上げて頑張ってもらいたい。	
	<p>(1) 海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開 (小項目)</p> <p>ア 各学部の特徴を十分に生かし、海外学術交流協定大学の学生にとって魅力ある受入校となるための取組を進め、受入学生数を増やす。</p> <p>イ 学生及び教員のニーズを探りながら、魅力ある海外の大学との新たな学術交流協定の締結に取り組み、派遣学生数を増やす。</p>	<p>○受入学生増加のための対応策の検討</p> <p>○留学生アドバイザー制度の試行実施に合わせた受入環境等に係る留学生の要望の調査</p> <p>○新規協定校開拓のための対応策の検討</p> <p>○協定締結に向けた相手校との具体的な交渉</p>	<p>小項目評価</p> <p>○受入学生増加のための対応策を検討し、平成 24 年度秋季入学試験から国際学研究科において、海外の学術交流協定大学を対象とした推薦入試制度を導入することにした。また、学長指定研究における留学生アドバイザー制度の試行実施に合わせて、受入環境等に係る留学生の要望の調査を行った。</p> <p>○平成 23 年 4 月から平成 24 年 1 月にかけて、全学生に対し留学先の希望に関するアンケートを実施した。また、学生から需要の高いヨーロッパの大学であるレンヌ第 2 大学と学術交流協定を締結したほか、キングストン大学（イギリス）と学術交流協定の締結に向けた本格的な協議を開始した。さらに、学術交流協定大学である西京大学（韓国）と協議し、平成 24 年 8 月から本学学生を対象に西京大学のプログラムである「韓国文化・言語短期特別研修プログラム」を受講することにした。</p> <p>上記の取組のうち、レンヌ第 2 大学との協定締結については、中期計画に掲げる「魅力ある海外の大学との新たな学術交流協定の締結」を実現したものであり、また、海外の学術交流協定大学を対象とした推薦入試制度の導入及び西京大学のプログラム受講については、派遣学生数及び受入学生数の増加に大きく貢献するものであることから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>海外学術交流協定大学との人材交流を積極的に展開するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○日本中の大学が国際化に向け、学生・教員の受入れ、派遣に血のにじむ努力をしている。一つ二つの交流協定締結で満足せず頑張ってもらいたい。</p> <p>○ここに平和研究所の記述がないのは寂しい。平和研究所が関わって、グローバルな交流があってもよいのではないか。</p> <p>○英語による授業がたくさんあり、学位が取れるなら、世界中から学生を誘引する効果があると思う。この点を更に充実させてほしい。</p>	B	
	<p>(2) 留学生への支援体制の充実 (小項目)</p> <p>ア 国際的に魅力ある留学生受入れプログラムを整備し、独立行政法人日本学生</p>	<p>○留学生受入プログラムの検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>○夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」について、独立行政法人日本学生支援機構による「平成 23 年度留学生交流支援制度」の奨学金を申請した（奨学金採用者数：18 名 奨学金の額：1 名につき 8 万円）。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>留学生への支援体制の充実を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B	

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第3 業務運営の改善 及び効率化に関する 目標	<p>支援機構の留学生交流支援制度等の奨学金を申請する。</p> <p>イ 国際交流に関する専任スタッフの配置等により、留学生の進学、就職相談等の留学生支援体制の充実を図る。</p> <p>ウ 留学生の様々なニーズに応じた助言やサポートを行うため、アドバイザー制度等を整備する。</p> <p>エ 海外に留学した学生の体験談等をデータベース化し、海外留学希望者に情報を提供する。</p> <p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目）</p>	○留学生アドバイザー制度等の試行実施	<p>○学長指定研究により、留学経験のある学生を中心に留学生の様々なニーズに応じた助言やサポートを行う「留学生アドバイザー制度」を試行的に実施した。</p> <p>以上のように、留学生への支援体制の充実を図るための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
			<p>大項目評価</p> <p>事務処理の効率化及び適正化に大きく貢献した取組として優れたものと評価した大学運営に係る提案の募集を始めとして、中期計画に掲げる重点取組項目である「戦略的かつ機動的な大学運営」を行うための事務局組織体制の更なる強化など、業務運営の改善及び効率化を図るための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>業務運営の改善及び効率化全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○この時点でやるべきこと、なし得ることは全てやっていると思われる。</p> <p>○法人化により、効果的な運営ができています。</p>	A
1 運営体制に関する 目標 (1) 機動的な運営体制の構築 理事長（学長）がリーダーシップを発揮できる意思決定システムの構築等により、全学的かつ中長	<p>1 運営体制（小項目）</p> <p>(1) 機動的な運営体制の構築</p> <p>ア 理事長を補佐する理事の役割分担を明確にするとともに、理事長及び理事を支援する事務組織体制を整備する。</p> <p>イ 理事長、理事、学部長等</p>		<p>小項目評価</p> <p><社会に開かれた大学づくりの推進></p> <p>○学部、附属施設等の発行する出版物のデザインを向上させるため、平成23年12月及び平成24年2月に教職員及び学生を対象とした研修会「広報スキルアップセミナー」を開催した。</p> <p>○教授会及び各委員会等における審議事項及び次年度に向けた課題等のほか、入試・就職状況及び教職員数・学生数等のデータを掲載した年報（公立大学法人広島市立大学の概要）を作成した。</p> <p>○各種イベントのチラシ等の本学の刊行物に関するデータベースを</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>運営体制について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○教員の採用や事務組織体制など、組織改革後の運用実績などを見ると十分に機能していることがうかがえ</p>	A

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>期的視点から戦略的かつ機動的な大学運営を行う。</p> <p>(2) 社会に開かれた大学づくりの推進 積極的な広報や大学運営への学外有識者の参画により、社会に開かれた大学づくりを推進する。</p> <p>(3) 監査制度の活用による法人業務の適正処理の確保等 公立大学法人の監</p>	<p>が定期的に協議し、幅広く意見を収集するための仕組みを構築する。</p> <p>ウ 全学的かつ中長期的視点から戦略的かつ機動的に人員配置、予算配分等を行う仕組みを構築する。</p> <p>エ 教職員が一体となって企画・立案・実施に参画する大学運営の仕組みを構築する。</p> <p>(2) 社会に開かれた大学づくりの推進 ア 積極的な広報 (ア) ホームページの内容の充実を図るとともに、管理及び運用のためのルールを整備する。(再掲) (イ) 全学的視点から積極的な広報を行うための体制を整備する。 (ウ) 大学の「年報」を作成する。 (エ) 刊行物のデータベースを構築し、ホームページ等で公開する。 イ 大学運営への学外有識者の参画 理事や経営協議会の委員に学外有識者を積極的に登用する。</p> <p>(3) 監査制度の活用による法人業務の適正処理の確保等 ア 会計監査人の協力を得て、監事を中心とした実効</p>	<p>○学部、附属施設等の発行する出版物のデザインを向上させるための仕組みの構築</p> <p>○「年報」の作成</p> <p>○刊行物のデータベースの構築、ホームページでの公開</p>	<p>作成し、ウェブサイトに掲載した。</p> <p><監査制度の活用による法人業務の適正処理の確保等></p> <p>○会計監査人からのマネジメントレターによる指摘等に基づいた検証を行うとともに、対応策を検討し大学運営の改善に反映させた。</p> <p>以上のように、教授会及び各委員会等における審議事項及び次年度に向けた課題等を掲載するほか、入学試験実施状況や教職員数・学生数等のデータを掲載することにより、7年に1回行われる認証評価機関への対応のみならず、事務引継等への活用も可能な構成にしたことにより、優れた取組を実施したものと評価した年報の作成を始めとして、運営体制に係る取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>		<p>る。</p>	

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>査制度を活用し、法人業務の適正処理の確保及び大学運営の改善に努める。</p>	<p>性のある監査体制を整備する。</p> <p>イ 監査結果を大学運営の改善に反映させる仕組みを構築する。</p>	<p>○監査結果を大学運営の改善に反映させる仕組みの検討</p>				
<p>2 人事に関する目標</p> <p>広島市立大学の教育研究、社会貢献等を活性化させるため、公立大学法人制度の利点を生かした柔軟な人事制度や多面的な教員評価制度を構築する。</p>	<p>2 人事（小項目）</p> <p>(1) 柔軟な人事制度の構築</p> <p>ア 特任教員等の任用制度を導入する。</p> <p>イ 裁量労働制を導入する。</p> <p>ウ 兼職・兼業に係る許可基準を新たに作成する。</p> <p>(2) 教員評価制度の構築</p> <p>ア 教員活動情報の外部への公開を前提とした多面的な視点による教員評価制度を導入する。</p> <p>イ 教員評価の結果を人事等に反映させる仕組みを構築する。</p>					
<p>3 事務処理に関する目標</p> <p>業務内容の変化に柔軟に対応し、定期的な業務改善や事務組織の見直し等に取り組むことにより、効果的かつ効率的な事務処理に努める。</p>	<p>3 事務処理（小項目）</p> <p>(1) 事務処理の内容及び方法について、定期的な点検を実施し、必要に応じて改善を行う。</p> <p>(2) 業務内容の変化に柔軟に対応し、効果的かつ効率的な事務処理ができるよう、事務組織の定期的な見直しを行う。</p> <p>(3) 全学的な課題等について組織横断的に取り組むための体制を整備する。</p>	<p>○事務処理の内容及び方法に係る点検の実施</p> <p>○事務組織の定期的な見直し</p>	<p>小項目評価</p> <p>○「効果的かつ効率的な事務処理」及び「職員の意識改革」を目的として、大学運営に係る提案を職員から募り、理事長、理事、副理事及び事務局各室長で構成する理事会連絡会議において提案内容に係る審議を行った。</p> <p>○法人化後2年が経過したことによる実績を踏まえ、事務局組織体制の見直しを行った結果、以下のとおり、平成24年度に組織改正を行うことにした。</p> <p>①企画室と総務財務室（財務グループ）を統合して企画経営室を設置し、専任の室長を配置</p> <p>②総務財務室（総務グループ）と教育研究支援室を統合して総務室を設置</p> <p>上記の取組のうち、大学運営に係る提案の募集について、職員からの提案に基づき、職務権限や旅費支給制度の抜本的な見直しを行うな</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>事務処理の効率化及び適正化について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 23 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第 4 財務内容の改善に関する目標	第 4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目）					
			大項目評価	a	〔評価理由〕 財務内容の改善全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 ○自助努力による収支改善度合いが端的に評価できる会計上の仕組み（管理会計）の工夫が必要である。	A
			小項目評価	b	〔評価理由〕 自己収入の増加を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B
1 自己収入の増加	1 自己収入の増加（小項目）					
教育研究環境を向上させるため、外部資金の積極的な獲得に取り組むなど、自己収入の増加を図る。	(1) 外部資金の獲得に取り組むため、外部資金に関する情報収集や申請、受入等に対する支援体制を強化する。 (2) 公開講座の拡充や大学が保有する施設、設備、機器、作品等の活用により、多様な収入の確保を図る。 (3) 授業料等学生納付金をはじめとする業務に関する料金について、他大学の動向や社会経済情勢、法人の収支状況等を考慮した適切な料金設定を行う。	○多様な収入の確保 ○授業料等の料金設定の検証				
2 管理経費の抑制	2 管理経費の抑制（小項目）					
全学的視点から、業務運営の効率化、人員配置の適正化等に努め、管理経費の抑制を図る。	(1) ICT の活用による業務の効率化、光熱水費等の節減、教職員一人一人のコスト意識を高めるための研修の実施等により管理経費の抑制を図る。 (2) 教育研究水準の維持向上に配慮しながら、組織運営の	○省エネルギー対策の啓発、管理経費の抑制 ○教職員配置等の見直し	小項目評価	a	〔評価理由〕 管理経費の抑制について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 ○全体予算に占める光熱水費の割合はそう多くはないであろうが、いろいろな工夫	A
			以下の実績のとおり、省エネルギー対策に係る啓発等による光熱水費の節減に取り組んだ。また、事務局の組織改正に合わせて職員配置の見直しを行うとともに、事務局各部署の業務負荷を見ながら兼務による応援体制を組むなど職員の適正かつ弾力的な人員配置を行った。 【平成 23 年度取組実績】 ①平成 23 年 6 月：省エネルギー対策への取組を全学的に啓発 ②平成 23 年 6 月：適切な夜間照明の調査及び改善 ③平成 23 年 8 月：「CO2 削減・節電ポテンシャル診断」を受け、			

中期目標	中期計画	平成 23 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第 5 自己点検及び評価に関する目標	<p>効率化、非常勤教職員も含めた人員配置等について、定期的な見直しを行う。</p> <p>第 5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目）（小項目）</p>		<p>コスト削減箇所の把握を実施 <節減効果 ※実質節減額については、平成 23 年度平均単価で算出></p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気料金 節電の励行等により、年間使用量において、前年度比較で約 5%（約 31 万 kwh、実質節減額は約 510 万円）の節電効果を得ることができた。 ・ガス料金 より一層の適切な空調管理の励行及び平成 22 年 10 月のガス空調機器のリニューアル効果等により、年間使用量において、前年度比較で約 14%（約 7 万 m³、実質節減額は約 850 万円）の節ガス効果を得ることができた。 <p>④平成 23 年 9 月：一部女子トイレ照明の LED 化及び節水対策 ⑤平成 23 年 10 月：各学部棟ホールの電球型照明の一部 LED 化 ⑥平成 24 年 2 月：一部女子トイレ照明の LED 化及び節水対策</p> <p>以上のように、省エネルギー対策の啓発や職員配置の見直しなど、管理経費の抑制を図るための取組を計画どおり着実に実施した。その結果、特に電気代及びガス代等の光熱水費において、前年度比較で約 1,400 万円の大幅な節減につながったことから、「a」と評価した。</p>		<p>をして細かい取組を重ね、節減に努めている。</p>	
			<p>大項目評価</p> <p>自己点検及び自己評価方法の確立、自己評価及び第三者機関による評価に関する情報のウェブサイトでの公開等、自己点検及び評価に関する取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>自己点検及び評価全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A
			<p>自己点検、自己評価及び第三者機関による評価を定期的実施することにより、大学運営の改善に努める。また、評価に関する情報を積極的に公開する。</p>	<p>1 定期的に自己点検及び自己評価を行う体制を整備する。</p> <p>2 自己点検、自己評価及び第三者機関による評価の結果を、大学運営の改善のために活用する仕組みを構築する。</p> <p>3 自己評価及び第三者機関による評価に関する情報をホームページ等で積極的に公開する。</p>	<p>○自己点検及び自己評価方法の確立</p> <p>○評価結果の積極的な公表</p> <p>○評価結果のホームページ等での公開</p>	<p>小項目評価</p> <p>○以下の実績のとおり、自己点検及び自己評価方法を確立するとともに、当該点検及び評価に係る取組を実施した。</p> <p>【平成 23 年度取組実績】</p> <p>①平成 23 年 4 月：各学部等において、平成 22 年度計画に対する自己評価を実施した。</p> <p>②平成 23 年 5 月・6 月：各学部等における自己評価結果に基づき、理事長及び学内理事において、全学的な自己評価を実施し、6 月開催の自己評価委員会、教育研究評議会、経営協議会及び理事会において評価結果について審議・決定した。</p> <p>③平成 23 年 11 月：平成 23 年度計画について、中間期（9 月末）における業務実施状況を把握するとともに、必要に応じて指導</p>

中期目標	中期計画	平成 23 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価					
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号				
第 6 その他業務運営に関する重要目標	4 教員活動情報の外部への公開を前提とした多面的な視点による教員評価制度を導入する。(再掲)	○平成 23 年度 年度計画	<p>等を行った。</p> <p>④平成 24 年 3 月:平成 24 年度計画策定に当たっての参考として、平成 23 年度計画に対する業務実施状況を把握するための調査等を行った。</p> <p>○平成 23 年 7 月に、平成 22 年度計画に対する自己評価結果及び決算報告書等で構成する業務実績報告書を、平成 23 年 9 月に、広島市公立大学法人評価委員会による平成 22 年度業務実績に係る評価結果を、それぞれウェブサイト公開した。</p> <p>以上のように、自己点検及び自己評価方法の確立並びに評価結果の公表に係る取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>		<p>をクリアしたということであり、目標達成に向けて着実に前進しているといえる。</p> <p>○自己点検及び評価の実施に当たり、多方面からの調査検討をし、優れた取組を実施したと認められる。</p> <p>○この時点でやるべきこと、なし得ることは全てやっていると思われる。</p> <p>○自己点検評価結果を踏まえ、効果的な見直しや新たな取組が積極的に行われている。本来なら「S」としても良い。</p>					
	5 教員評価の結果を人事等に反映させる仕組みを構築する。(再掲)						<p>大項目評価</p> <p>教職員の安全衛生に係る講習会の開催や職場巡視等の実施、ハラスメントの防止のための教職員を対象とした講演会の開催や学生へのチラシの配布等、安全で良好な教育研究環境を確保するための取組並びに電気錠の更新等の施設及び設備の適切な維持管理に係る取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>【評価理由】</p> <p>その他業務運営に関する重要目標を達成するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○安全で良好な環境整備に対する細やかな気配りがなされている。</p> <p>○特にハラスメントに関して多面的な対策を講じた点について評価できる。</p>	B
	1 施設及び設備の適切な維持管理等 快適なキャンパス環境を確保するため、既存の施設及び設備の適切な維持管理と有効活用、機能拡充の						<p>1 施設及び設備の適切な維持管理等 (小項目)</p> <p>(1) 施設及び設備の効率的な維持管理を行うとともに、その利用状況を把握し、有効活用を図る。</p> <p>(2) 教育研究機能の充実を図</p>	○施設・設備の効率的な維持管理の実施	<p>小項目評価</p> <p>以下の実績のとおり、施設・設備の効率的な維持管理を実施した。</p> <p>【平成 23 年度取組実績】</p> <p>①平成 23 年 7 月・8 月:電気錠の更新に伴うプロジェクトチームによる仕様書の内容の検討</p> <p>②平成 23 年 9 月:日没時間が早まることに伴う、夜間照明の点灯時間の適正化</p>	b

中期目標	中期計画	平成23年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>ための施設及び設備の整備に取り組む。</p> <p>2 安全で良好な教育研究環境の確保</p> <p>学生や教職員の安全衛生管理、人権に関する意識の向上を図るとともに、災害等不測の事態に適切に対応できる体制の整備に取り組むことにより、安全で良好な教育研究環境を確保する。</p>	<p>るため、未利用の大学隣接地へのセミナーハウス、学生寮、留学生受入施設等の新たな施設整備について検討する。</p> <p>2 安全で良好な教育研究環境の確保（小項目）</p> <p>(1) 災害等不測の事態に適切に対応できるよう、危機管理マニュアルを作成する。</p> <p>(2) 安全衛生管理に関する研修等を定期的実施する。</p> <p>(3) 定期健康診断等の実施により、教職員の健康管理を適切に行う。</p> <p>(4) セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等を防止するための研修等を実施する。</p>	<p>○安全衛生管理研修、職場巡視等の実施</p> <p>○衛生管理者の養成</p> <p>○定期健康診断等の実施</p> <p>○ハラスメントに関する研修の実施</p>	<p>③平成23年11月：電気錠の更新契約締結</p> <p>④平成24年2月：学内施設活用委員会におけるトラック&フィールドの貸付方針の検討</p> <p>以上のように、施設・設備の適切な維持管理等に係る取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p> <p>小項目評価</p> <p>○平成23年5月から計6回職場巡視を実施するとともに、平成24年1月に生活習慣病講演会を開催したほか、学内に衛生管理者が少ないことから、担当教員に衛生管理者試験を受験させることにした。</p> <p>○平成23年8月から平成24年3月までの間において教職員に対し定期健康診断及び特殊健康診断を実施するとともに、平成24年1月にVDT作業従事教職員健康診断を実施した。また、教職員がストレスチェックを行うことができるウェブサイトやメンタルヘルスの相談窓口を紹介した。</p> <p>○セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等を防止するため、平成23年11月に教職員を対象としたハラスメントの防止に関する講演会を、平成24年2月にハラスメント相談員を対象とした相談対応研修を実施したほか、平成23年4月に学生向けチラシの配布（新入生オリエンテーション時）、教職員に電子メールによる啓発を実施した。</p> <p>以上のように、安全で良好な教育研究環境を確保するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
				b	<p>〔評価理由〕</p> <p>安全で良好な教育研究環境を確保するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○様々なアプローチでのハラスメントに対する対策を講じている。</p> <p>○教職員の健康管理に対する取組をきめ細かに実施している。</p>	B

広島市公立大学法人評価委員会 委員名簿

職名	氏名	現職等	備考
委員長	平澤 冷	東京大学名誉教授	
委員	金田 晋	広島大学名誉教授	
委員	下中 奈美	弁護士	
委員	高橋 正	株式会社広島銀行特別顧問	
委員	最上 敏樹	早稲田大学教授	